



「青果物輸出産地セミナー&交流会」 福岡県内あまおう苺の輸出に向けた取り組み

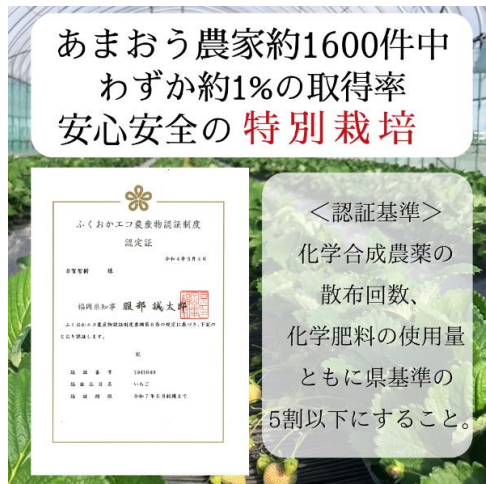
株式会社うるう農園
古賀 百伽

福岡県久留米市にてあまおう苺を日本一の面積で栽培



- 代表夫婦により創業し、2018年からいちご栽培を開始
⇒**2020年に法人化して今年で4年目**
 - 元々は生命保険の営業と有明海の海苔の漁師
- 安心安全な有機野菜に興味持って農業を開始
 - 当初は8品目栽培していたが、販売面で失敗
- あまおう作りの師匠に出会い、減農薬の栽培技術を引き継ぐ

特別栽培にて生産、農園内ではチーズケーキ、プリン等を開発



- あまおうの約50tを**特別栽培（化学農薬、化学肥料5割以下）**で生産

- コロナ禍を期に、いちご狩り事業中心から通販事業へと主力事業が置き換わった

➤ 2021年にはじゃらん九州人気いちご狩り施設
グランプリ4年連続優勝 & 通販販売数1.3万
件突破



- うるう農園は福岡県認定の**新規就農希望者の研修受入機関**であり、**小学生向けの食育活動**も実施

輸出開始の経緯

先々を見据え、国内だけでなく海外での販路拡大を検討

- 今後、国内のビジネスだけで所得を上げていくことに不安を感じ、当時の円安という状況をチャンスと捉え、輸出に向けた取り組みを開始
 - 行政に相談し、GFPの紹介を受け、輸出に向けた情報収集をしつつ、GFP・JETRO・行政からの案内の商談会にはとにかく参加
 - 海外でも富裕層向けに「**減農薬**」というワードが評価される点、**高品質ないちごの量が担保できる点**を強みとし、商談の際にはアピール
- 
- 昨年度の日青協のマッチングで初成約し、**2022年12月に輸出を開始**
 - 昨年度の実績：輸出額1,300万円（売上の1割を占める）

現状の輸出体制

**生産規模と台湾向け輸出への取組が評価され、
昨年の12月から香港・シンガポール等に向けて輸出開始**



- 当農園のみで国内のあまおう生産量は県内トップ
- 福岡で台湾向けに生産できるあまおう生産者は10件程度であるため、台湾市場はブルーオーシャン
 - 当農園はあまおうのみで1.1haの生産規模であり、すべて台湾向け輸出に対応できる体制を整えている

台湾向け輸出への取組

アジア地域で最も残留農薬基準値が厳しい 台湾への輸出を想定した防除体系の構築



- 台湾の農薬規制に対応した栽培を実施する
あまおう農家は1600件中、弊社含め数件
程度
- 台湾向け輸出に向けて、産地作りから国内
商社様にサポートいただいている
 - 農薬をどう減らしていくのか、いつ農薬を撒
くのか等の意見交換
 - 連携先の商社様に繋いでいただき、先進
事例である他県のいちご生産団体の産
地視察を実施

台湾向け輸出への取組

台湾の農薬規制に対応するため 手間とコストを多大に投下することが必須



グリセリンで害虫を窒息



一株つつ丁寧に手間暇かけ手入れ

- 福岡県の特別栽培の認定を受けているが、台湾の農薬規制は県基準の2割程度
 - 残留成分の0.01mmも検出が許されない不検出の農薬も多数
 - いちごが花をつけた後11月～2月までは化学農薬不使用にする必要あり
- 人手をかけた徹底的なイチゴの見回り管理と、害虫の天敵をハウス内に放ち防除する生物農薬を利用する必要あり

台湾向け輸出への取組

花咲き後～2月まで化学農薬不使用とする栽培方法



1. イチゴの登録農薬の内、輸出用防除体系に使用可能な農薬を選定
2. 育苗期は国内の使用基準に沿って農薬を使用可能
 - ナミハダニ対策では天敵カブリダニを利用し、本天敵に影響しない農薬を使用
3. 開花以降、うどんこ病には紫外線UV-B照射、ハダニ類には天敵カブリダニを利用し、その他の病害虫に対しては天敵に影響が少なく、かつ残留農薬基準値が日本と同等以上の農薬を使用



台湾向け輸出への取組

花咲き後～2月まで化学農薬不使用とする栽培方法



4. 蒸熱処理やUV-B照射装置の減価償却費、電気代や蒸熱処理作業労賃に10a当り17.6万円を要する
 - うどんこ病果実の低減より増収が見込める
5. 天敵防除をすると天敵が死滅する為、使用できる農薬が約5割減、さらに台湾輸出に対応するとほんの数種類のみ
6. 夏場の苗見回りを7万株毎日欠かさず行い、病害が疑われる株は周り20株廃棄

輸出向けあまおう生産団体“福岡ストロベリーパーク”立ち上げ

目的

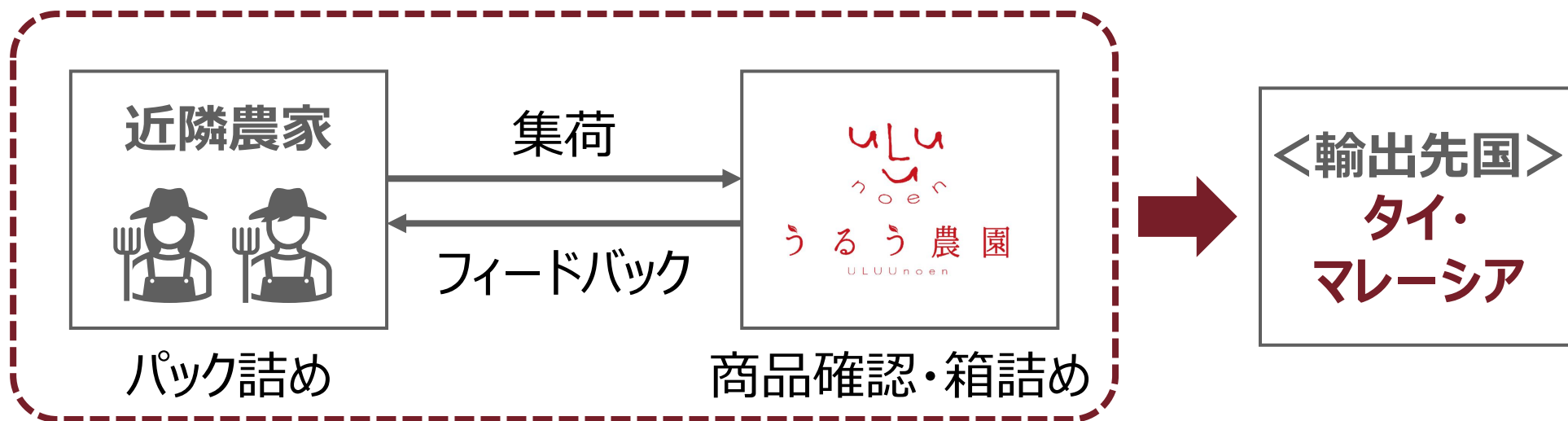
- 味や品質が独自基準に達したあまおうを輸出し、日本の果物の価値を高めること

概要

- 県内のあまおう農家を招集し、独自の基準を設け、高い品質を保ったいちごの生産を旨指す
 - 農家には既に声掛け済みで現時点では5件の農家が参画予定（去年はふるさと納税の取組と一緒に実施）
 - 栽培した当日集荷の徹底や減農薬への統一等
- 連携先の生産者との統制を本格的に取ることを見据え、現在法人化に向け準備中

今後の展望

来季には福岡ストロベリーパークでタイ・マレーシアへの 直接輸出を目指す



福岡ストロベリーパーク（法人化の手続き中）

- 輸出の拡大が見込めるマーケットであるタイ・マレーシアを輸出先国に選定
 - マレーシアはHISを介して現地バイヤーと商談予定
- 直接輸出に向けて社内にて商社機能を持つため、輸出人材の育成等をJETROの伴走支援にお願いする予定（必要に応じて新たな人材の採用も検討）